

令和3年度事業報告

当法人の主たる設置目的は、交通安全教育を推進して交通安全意識の普及高揚を図り、もって交通の安全に寄与することである。この設置目的を達成するために、「思いやりの心を育む」交通安全教室を活動の中心に据え、県民一人ひとりの交通安全に対する意識を高め、悲惨な交通事故を1件でも減らすため事業計画に沿った活動を積極的に展開した。

その結果、令和3年中の交通事故の発生件数、死傷者数はいずれも減少し、当法人の活動もコロナ禍ではあるが所期の目的を概ね達成できたものと総括している。

事業の重点	実 施 結 果																								
1 高齢者、子ども、身体障がい者等の交通安全教育活動	<p>(1) 参加・体験・実践型の出前式交通安全教室の開催</p> <p>○ 交通安全教室実施結果 免許保有者や現役世代等と違って交通安全教育を受ける機会の少ない「幼児」「児童」「高齢者」のいわゆる交通弱者を重点対象とし、「おもいやりの心を育む」ことを交通安全教育の要諦において、参加・体験・実践型の交通安全教室を前年度に引き続き年間 1,100回 受講者 14万人を目標に取り組んだ結果、680回（前年度比 +209回）の交通安全教室を開催し、受講者は86,112人（前年度比 +31,230人）であった。 いずれも目標を大きく下回ったが、その要因は新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセルが増加したことにある。</p> <p>○ キャンセル状況 新型コロナウイルス感染者が減少した時期があったものの、第4波から第6波の感染症者増加に伴い保育園、学校等の施設が防疫措置をとったことにより、交通安全教室教室がキャンセルとなり、結局本年度は</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>北 信</td> <td>297箇所</td> <td>(+59.7%)</td> </tr> <tr> <td>東 信</td> <td>148箇所</td> <td>(+41.0%)</td> </tr> <tr> <td>南 信</td> <td>124箇所</td> <td>(+34.8%)</td> </tr> <tr> <td>中 信</td> <td>111箇所</td> <td>(+26.1%)</td> </tr> </table> <p>の交通安全教室に留まった。</p> <p>○ 対象別実施状況 重点対象とした「幼児」「児童」「高齢者」別の実施状況は、</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>幼 児</td> <td>324回</td> <td>(47.6%)</td> </tr> <tr> <td>児 童</td> <td>200回</td> <td>(29.4%)</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>54回</td> <td>(7.9%)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>680回</td> <td>(85.0%)</td> </tr> </table> <p>であった。</p> <p>○ 派遣出動指導員数 指導員の減少に伴い17名の指導員が県下の680回の交通安全教室に対応し、方面担当を超えた102回の派遣応援により、延べ1,948人が従事した。</p>	北 信	297箇所	(+59.7%)	東 信	148箇所	(+41.0%)	南 信	124箇所	(+34.8%)	中 信	111箇所	(+26.1%)	幼 児	324回	(47.6%)	児 童	200回	(29.4%)	高齢者	54回	(7.9%)	計	680回	(85.0%)
北 信	297箇所	(+59.7%)																							
東 信	148箇所	(+41.0%)																							
南 信	124箇所	(+34.8%)																							
中 信	111箇所	(+26.1%)																							
幼 児	324回	(47.6%)																							
児 童	200回	(29.4%)																							
高齢者	54回	(7.9%)																							
計	680回	(85.0%)																							

○ 交通安全教室マニュアルの作成
指導員のノウハウを最大限に生かし、将来にわたり技術の伝承を図るため、キャンセルとなった時間を活用して、対象者別のマニュアルの作成を行った。

○ 指導員による腹話術オリジナル台本集の作成
各方面指導員の伝承により受け継がれてきた腹話術のシナリオを、一冊の本にまとめマニュアル化を図った。

(2) 高齢者に対する交通安全教育の充実

当法人の高齢者に対する交通安全教育は、各方面から好評を得ている。令和3年度は、安全に道路を通行するために必要な実践的スキル及び交通ルール等の知識の習得に加え、特に高齢者の反射材・自発光材の積極的活用について交通安全教育を実施した。

具体的に進めた事業は次のとおりである。

○ 孫からおじいちゃん、おばあちゃんへの反射材プレゼント事業
コロナ禍で多くの祖父母参観日が中止になったが、園児手作りの反射材にメッセージを添えて持ち帰り、祖父母に、身に付けてもらい、反射材の活用促進を図った。

(3) 自転車利用者へのヘルメット着用推進

自転車利用者の交通事故のうち、高齢運転者の重症化が懸念されることから、主に高齢者を対象とした交通安全教室で、気軽に着用できる乗車用ヘルメットの着用促進を図った。

(4) 幼児、児童に対する交通安全教育の充実

交通安全教育の目標を「基本的な交通ルールを守り、安全に行動できる習慣や態度を身に付けさせる」ことにおき、道路の利用者として必要なスキルと知識を習得させ、交通ルールの意味及び必要性等を理解させるため、指導員手作りの大型仕掛けパネル等を使った「心に残る交通安全教育」に努めた。

また、大型仕掛けパネルが受講者に好評なことから他方面においても作成活用することとした。

具体的に進めた事業は次のとおりである。

○ 交通安全モデル園事業

6年目を迎えた本事業は、昨年度あんず保育園（北信）、臼田保育園（東信）の2園をモデル園に指定し、園関係者と連携を密にしながら、年間を通じて交通安全教育を実施した。

また、コロナ禍により不足がちな交通安全教室を補うために、園の行事にあわせた活動や保護者向け広報紙の作成、保育士が交通安全カルタを利用して日常的に子供たちの交通安全意識の醸成を図る活動等を推進した。

○ ピタッとストップ大作戦

道路に出るときは必ず「止まる」ことを幼児期に習慣付けるため、園内、園庭、駐車場出入口などに貼付する当法人オリジナルのストップマークを無償提供した。

○ 新1年生の保護者を対象とした交通安全教育

新小学1年生の保護者を対象に、保護者自身が日常生活の中で模範的な行動をとり、家庭内で子どもに安全指導が行えるようにする

	<p>ための交通安全教室を実施した。 また、コロナ禍においてやむを得ず当該交通安全教室を開催することが出来ない対象には先方の同意を得て代表者を通じ保護者あてにパンフレット配布するなど一歩踏み込んだ活動を実施した。</p> <p>(5) 学校教育関係者に対する交通安全教育 学校等の教職員を対象とした飲酒ゴーグル等を活用した交通安全教室を開催した。 ○ 4/21 長野市 城山小学校 20名 ○ 7/20 岡谷市 西部中学校 25名</p>
<p>2 県民の交通安全意識の普及高揚活動</p>	<p>県民一人ひとりに幅広く交通安全意識の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを習慣付けるため、関係機関・団体と連携した活動を展開した。</p> <p>(1) 交通安全啓発事業の共催、支援 長野県交通安全運動推進本部や交通安全関係団体が主催する交通安全啓発に係る行事等を共催、支援した。 ○ 交通事故ゼロチャレンジ事業の共催</p> <p>(2) 児童、家庭及び地域の交通安全意識の向上 初等教育の重要性に着目し、県下全ての児童の自主的な交通安全意識の向上と地域及び家庭の交通安全意識の向上を図ることを目的として平成平成29年度から「僕たち・私たちの交通安全宣言」事業を展開している。 上半期 よくみて みぎみて ひだりみて うしろみて まえみて 千曲市立屋代小学校2年 宮下 夏葵さん 下半期 ヘルメット 正しくかぶる 安全だ 阿智村立清内路小学校5年 森下 亜蘭さん の交通安全目標をポスターにして県下小学校に配付した。 なお、来年度ポスターの選定に当たり、長野県教育委員会から、コロナ禍の影響により募集活動の自粛を求められたことから、令和3年度の目標安全教室の時間中に立てた個人目標の中から選考することとした。 その結果 上半期(最優秀賞) てをあげて うんてんしゅさんの かおみます 塩尻市立宗賀小学校4年(応募時) 足助 心美さん 下半期(最優秀賞) 自転車は 車の仲間 歩行者ゆうせん 小諸市立東小学校5年(応募時) 佐藤 夢咲さん を選定した。 なお、優秀賞6名に対し表彰状と副賞を贈り、参加校に対しては大判ストップマークを贈呈した。</p> <p>(3) シートベルト、チャイルドシートの正しい使用 幼稚園・保育園における保護者、祖父母を対象とした交通安全教室において、チャイルドシートの着用促進とその正しい使用方法を指導した。</p>

- (4) 広報啓発活動の推進
交通安全教育の重要性を幅広く認知してもらうため、広報活動を積極的に推進した。
- 広報用パンフレットのリニューアル
講習内容やQ & A及び指導員派遣申請の方法をわかりやすく周知してもらうため、広報用パンフレットを改定して公民館、支所等に設置を依頼した。
 - 広報用クリアファイルの作成
広報用のほか、僕たち・私たちの交通安全宣言事業等の参加記念品としてクリアファイルを作成した。
 - しなの鉄道映像広告による広報
放映期間 ・ 4月 1日～4月15日
・ 9月16日～9月30日
全国交通安全運動に合わせ、しなの鉄道の屋代、戸倉、上田、小諸、軽井沢駅5か所の改札口モニター及び列車内モニターにおいて広報を行った。
 - 南海放送（愛媛県）「交通事故を考える」の取材対応
本県が信号機のない横断歩道での停止率全国1位であることに注目した愛媛県の南海放送が、全国唯一の組織である当法人を取材し、令和3年11月30日「交通事故を考える」という番組で指導員の活動、教育内容を紹介した。
 - 本田技研工業機関誌S J取材対応
本田技研工業（株）安全運転普及本部が交通安全情報誌として発行しているS J（セーフティジャパン）に、コロナ禍における非接触型の交通安全教室について実際の活動状況を含む取り組み状況を掲載した。
- (5) 指導者育成機関としての活動の推進
交通安全教育の裾野を広げて行くことが、より安全な交通環境形成には必要不可欠であるとの考えのもと、各種機関・団体等からの要請に基づき、当センターの指導員が講義を行うなど、交通安全教育の指導者育成機関としての活動を推進した。
主な活動は次のとおりである。
- 自治体等の指導員に対する教養講座の実施
自治体における新任の交通指導員に対する教養や、現任交通指導員に対し具体的な内容を含む教養講座を実施した。
 - ・ 11月17日 須坂市 交通指導員
 - ・ 3月4日 須坂市 新規交通指導員研修
 - ・ 3月22日 大町市 新規交通指導員研修
 - 「交通安全教育指導のポイント」の作成
当センターでは、小・中・高校の教諭が、各クラスにおける交通安全教育に活用するための教育指針に沿った交通安全教育指導のポイント「六つの心得」（35項目65ページ）を作成し、長野県教育委員会と連携して配布した。
 - 小学校入学前の保護者に対する啓発パンフレットの作成
保育園、幼稚園の年長児をもつ保護者に対し、当センターで作成

	<p>したパンフレット「新一年生の保護者の皆さんへ」の内容をよりわかりやすく修正して親子交通安全教室等で配布した。</p> <p>(6) 各種交通安全関係行事等への協力・支援 交通安全関係機関・団体が主催する行事等への協力・支援を行った。 具体的に協力・支援した活動は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県交通安全運動推進本部顕彰表彰式への出席 ○ 長野県交通安全運動推進計画策定への参加
<p>3 暴走族等による県民の安全を侵害する事案の防止活動</p>	<p>(1) 長野県暴走族追放県民会議への支援 「暴走族等による不法行為は許さない」という県民一人ひとりの暴走族追放意識の高揚を図り、青少年の健全育成、安全で快適な交通環境及び平穏な生活環境を確保するため、長野県暴走族追放県民会議の一員としてその活動を支援した。</p> <p>(2) 暴力団排除活動事業への助成 暴走族構成員やその予備軍への暴力団の介入を阻止するため、暴力団対策の主たる活動機関である長野県暴力追放県民センターの活動を助成した。</p> <p>(3) 犯罪被害者の支援活動 犯罪被害者のみならず、交通事故に遭遇した被害者及び関係者に対する支援活動も行っている長野犯罪被害者支援センターの活動を助成した。</p> <p>(4) その他の支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交通警察官に対する活動の支援 コロナ禍において交通取締り及び交通事故捜査に従事する警察官にする支援活動として抗ウイルス抗菌手袋を助成した。 ○ 高齢者の特殊詐欺被害防止 高齢者に対する交通安全教室の場を利用し、交通事故防止に併せて高齢者の特殊詐欺被害防止の広報・啓発を行った。 ○ 警察官採用活動の支援 県民の安全・安心の基盤を支える警察官の採用に当たり、より良き警察官採用のための活動を助成・支援した。
<p>4 その他の事業活動</p>	<p>(1) 自治体との協働 交通安全対策の活動母体である地方自治体との協働体制を堅固なものとし、地方自治体が地域の実情に応じた交通安全対策を推進するための活動を行った。 具体的な活動は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地方自治体へ出向している警察官との連携 ○ 長野市交通対策審議会委員として活動 <p>(2) 交通安全教育技能の底上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ペップトーク講習会の実施 やる気を引き出すコミュニケーション手法の一つであるペップト

ークを活用するための講習会を実施した。

- 全国研修等への積極的参加による広報活動と指導技能の向上
指導員の知識・技能の向上と当法人の活動を広く認知してもらうため、内閣府主催の令和3年度交通ボランティア等ブロック会議にリモートにより参加し、活動状況について発表を行うとともに、研修結果の還元教養を実施した。

- 内閣府主催「令和3年度交通安全指導者教養講座」参加

(3) 交通安全教育器材の開発

交通安全教育の経験豊富な指導員の『現場の声』を吸い上げ、実用的で廉価な交通安全教育器材を業者との連携によって開発を継続して実施している。

(4) コロナ禍における交通安全教育

コロナ禍における交通安全教室のキャンセルに対応するため、感染予防対策を講じた交通安全教育活動を実施した。

- 新型コロナ感染予防対策

指導員のワクチン接種など感染予防に配慮しながら、交通安全教室の現場ではマスクやフェイスシールドの着用と除菌剤の活用、検温を徹底し、会場の設定にあたっては3密に配慮するなど、感染予防対策を徹底した。

- 指導員の体調管理

例年春期に開催されていた交通安全教室が、コロナ禍の影響により開催時季が夏期以降にずれ込み、猛暑の中で長時間の野外活動や着ぐるみによる安全教室を余儀なくされたことから指導員の体調を考慮し「冷却ベスト」を指導員全員に配布した。

- リモート形式による交通安全教室の実施

新型コロナ感染予防の観点から、従前の形式にとらわれずソーシャルディスタンスに配慮した学校の放送設備を利用したリモート形式による交通安全教室を実施した。

- リモートによる部内会議システムの構築

コロナ禍における方面間の確実な連絡と連携を図るため、オンラインによるリモート会議が開催できるシステムを構築した。